



「老い」を生きる

弘教寺住職 中山英昭

今回は、「老い」を考えてみたいと思えます。私は、今年で還暦を迎えます。幼少時代、六十才と言えば、相当な老人をイメージしました。しかし、自分自身がいざ迎えてみますと、老人と言われることに何かしらの抵抗感があります。

釈尊のお言葉として、「この世において成しとげられないものが五つ(老・病・死・滅・尽)ある」と經典に出てまいります。

その一つ、老いでは、「老いゆく身でありながら、老いないということ」があります。

老いと向かい合い、それを背負い歩まなくてはならない存在、それが私なのです。

東井義雄先生の詩に、

「老い」というのは失われること 視力が失われる 体力が失われる 社会的役割が失われる 「老い」のさみしさは 失われていくことのさみしさとあります。

老いは、まさに失われていくことと、つくづく思います。新聞を見るにも、いつの頃からか老眼鏡が必要になり、また、はりきって



第18号

発行所

T37010131
伊勢崎市境米岡二七九二
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話027074(七四)0573

あれこれ動けば、翌日には足腰が痛くなる。ため息やら、愚痴がこぼれ出てきます。

ちよつとそこに置いた眼鏡や携帯電話がわからず、あちこち探し回る。そんな体験を、日常茶飯事に、くり返している私です。

以前、山崎龍明先生が、壮年会の記念講演にいらした折、次のようなお話しをされたことがあります。あるお寺の住職は、毎朝早く起き、境内を掃除するのが、日課であったそうです。山門の周りを掃除していると、いつも前の道をジョギングしている初老の方に出会いました。いつしか簡単な挨拶や言葉かけ合うようになります。ある日住職が、「何のために走っているのですか。」と尋ねると、

「健康な身体を作って、長生きするためです。」と答えました。さらに「何のために長生きしたいのですか。」と聞くと、その方は、答えが見つからず、その後しばらくして、寺の法座に顔を出すようになったとのこと。

竹下昭寿さんという、三十才でガンで亡くなられた方が、その病床日誌の中に、「人間は、量と長さばかりを問題にしている。金、いのち、うまいもの、すべて量と長さばかり、大事なのは、方向が決まること。」と書き記

(しる) しています。方向が決まるとは、どういうことでしょうか。

東井先生の「老い」の詩の中に、
体力が、だんだん失われていくが、
あたりまえであることのただごとでなさが
体中にわからせてもらえるようになる
の一節があります。

あたりまえであることに気付く。「老いる」「病む」「死ぬ」こと、それは生きとし生くるものあたりまえの相(すがた)ではないでしょうか。以前、欽ちゃんの番組に、女優の真屋順子さんという方が、レギュラー出演していらつしゃいました。平成十二年に脳イッ血で上下肢の障害を負い、車イスでテレビ出演し話された中に、「あたりまえにできていたことのありがたさを実感した。」と語っておられました。また、病気が真屋さんにとって、必要なことだったとも言われておりました。貴重な、尊い体験をされたのだと思います。



「老い」を尊いご縁として、大きな真実の世界にめざめ、気付き、ナオアミダブツと感謝のお念仏を称え、力強く歩みたいものです。

称名

弘教寺開山百五十周年を祝う

昨年十二月五日、天現山弘教寺開山百五十周年記念法要が修行されました。

聞くところによれば、安政七年(一八六〇年)に赤尾梵震師によって弘教寺の礎(いしずえ)が築かれ、その後四代にわたる歴代住職・坊守と、ならびに門信徒のご尽力により、念仏の道場として発展してきました。

今回百五十周年法要が、百名を超える大勢の皆様方にご参拝いただき、盛大裡にお勤めができましたことは、この上ない慶びでございます。

法要は、午前十一時前に司会者の発声で始まり、総代挨拶、十一時より群馬組組長様をお迎えして法要が開始され、終わってお齋をおいしくいただきました。

十二時半よりの記念講演として、中央仏教学院前院長の北畠晃融師のご法話を聴聞いたしました。



その後
当山宗祖
七百五十
回大遠忌
お待ち受
け法要が
勤まりま
した。

この記念法要を開催するにあたり、門信徒の皆様よりいただきましたご懇志から、本堂内陣の打敷(写真)を新調し、法要当日使用させていただきました。紙面にて報告とお礼を申し上げます。



合掌
(田中い)

親鸞聖人七百五十回大遠忌
「お待ち受け法要」弘教寺にて修行される

浄土真宗の開祖・親鸞聖人は一二六三年一月十六日にご往生になりました。ご本山では、平成二十三年四月から平成二十四年一月まで、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が営まれます。



この大遠忌法要のお待ち受け法要が、現在全国の組や寺院で、修行・開催されております。

弘教寺では十二月五日に、この法要が修行されました。当日は百人を越す門信徒の方々がお参り下さり、盛大に法要が営まれました。この法要行事は、大遠忌法要に向けて気運の高揚をはかるとともに、「新たな門信徒の誕生」や「寺院や組活動に従来ご縁のなかった方々の参加」をめざして行われているものです。ご法話では、北畠先生が、お念仏のみ教えについて有意義なお話しをして下さいました。

(貝塚しゅ)

親鸞聖人七百五十回大遠忌
本山参拝と古都奈良の旅

参拝者募集中

日時 平成二十三年十月十日

〜十二日

定員 八十名

参加費 七五、〇〇〇円

お問い合わせは弘教寺へ

TEL 0270-74-0573

平成二十二年度
門信徒会運動研修協議会に参加して

「現代の葬儀について」のテーマで研修協議会が三月十一日高崎市の敬西寺で行われました。



未経験の震度6での研修となる

組内のお寺さんから門信徒さんが三十名出席され弘教寺から貝塚総代外三名が出席し研修に望みました。五班の分科会に分かれて一時間の中で話し合いが始まり私の班はE班でした。

門徒推進員の方が司会進行して下さいましたので、多くの意見が出されました。しかしテーマが難しいので中々まとまりませんでした。皆さんより出る意見で共通する点は、葬式は悲しいものであり、つい最近迄は自宅から出棺され火葬場へ行かれていたのが、現在では葬儀屋さんの営業的な葬式で、本来の姿ではないのでは、ないか等の意見が出されました。

その後、お布施の話が出ましたが、突然の地震に見舞われ、避難するやらで話しかかわってしまい、時間もなくなるとまじりませんでした。

第三十一回東京教区仏教壮年会連盟
結成記念日研修会に参加して

普段、中々話すチャンスがないのが現実ですが、自分の葬式を考えると、お寺さんへの御恩を大事にすること等、自分の生き方を家族に伝えておきたいと思えます。

合掌
(佐藤よ)

二月十一日、教区内の各組から総勢三百余名、弘教寺からは十一名が参加し、本願寺築地別院本堂において第三十一回教区仏壯連盟結成記念日研修会が開催されました。当弘教寺の貝塚俊市(群馬組理事)さんの調声による「讃仏偈」の勤行からはじまりました。



研修会に参加の皆さん

した。教区仏壯連盟山本政秀会長の挨拶の中では「次世代に念仏を、そして、その喜びを繋げていかなければならない。壮年会として何ができるのか、壮年会としての使命・責任があるのでは」とのお話がありました。



佐々木さんの作品

このような「作品」が
作れます!

お問い合わせと
お申し込みは弘教寺へ
TEL: 0270-74-0573

**手芸同好会
「パッチワーク」の会が
新年度から始まる!**

私自身、生徒の身で有りながら人さまに、教えるなんて図々しいような気がしますが、皆さんのお力を借りて私の分かる範囲内で、ともに上達出来たらと思っております。皆さんのご参加を、よろしく願います。

代表 佐々木祐子

引き続き「浄土真宗の信心」と題し、大阪にある行信教学校長で常見寺住職の利井唯明先生より、「信心とはどういうことなのか」「信仰生活はどうあるべきか」という二点から詳細かつ具体的なお話がありました。早朝より冷たい雪が降り続く一日でしたが、熱のこもった有意義な研修会でありました。

(栗原ま)

弘教寺子ども会年間会員募集中!!

【子どもの集いの主な活動内容紹介】

「住職のご法話」「いのち」「阿弥陀さま」「お釈迦さま」「お盆」「本堂内陣」などを分かりやすくお話していただいています。

「作って遊ぼう・作って食べよう」自分の手で作って遊んだり食べたり、スタッフとの交流も大事にしています。

「誕生会」誕生日の歌とプレゼントでみんなに祝ってもらいます。

「皆勤賞・精勤賞」休まず参加した子が2月のつどいでプレゼントをもらえます。

「夏のつどい」紙しばい、わくわく広場、駄菓子屋さんなどで楽しく遊びます。

平成二十三年度も充実した会になるよう工夫していきます。たくさんのお会員登録をお待ちしています。

4月9日(土)の予告

アルミ缶と食用油でランタンを作り、水なしで料理をします。お楽しみに!(坊守)



〈平成23年度の予定〉

予定日	遊ぶ	食べよう
4/9	サバイバルランタン	防災せんべい
6/11	缶ぽっくり	おにぎり
8/20	夏のつどい	紙しばい 駄菓子屋
10/22	どろだんご	おでん
12/23	エイ夙	モチつき
H24 2/4	バルーンアート	ひな祭寿司

〈これまでの内容〉

篠竹でつぼう	みずあめ
紙ひこうき	白玉だんご
こま	モチつき
エイ夙	お絵かきせんべい
割り箸でつぼう	フルーツポンチ
缶ぽっくり	おでん
どろだんご	すいとん

◆この人◆神戸 幸雄さん・伊勢崎市

昭和十二年東京都品川区戸越で生まれ七十歳。一歳の時、父親が中島飛行機(株)に勤め一家は境町に引っ越してきた。戦後父親が仕事の関係で、弘教寺の前住職とのご縁ができ、墓所も設けて現在に至っている。

幸雄さんは五人兄弟の三番目で次男。姉の倉林昌子さんは現在仏婦副会長、妹の野水孝子さんは仏婦会長で活躍中、本人も世話人を努めておられる。

幸雄さんは地元の学校を終えて、洋服の縫製、和菓子の仕事など、持ち前の手先の器用さと誠実さで、周囲の人に好かれた。

父親の死を機会に、小野田セメントの建材関係の会社に勤め、小集団活動などで頭角をあらわし、指導者として活躍、定年を迎えた。

奥様は伊勢崎市の出身で、一男と一女に恵まれ、既に四人のお孫さんがいる。

幸雄さんは定年間際に胃の全摘手術を受けたが、中学時代から続けてきたソフトテニスで、現在も県大会出場を果たすほどの腕前。

他にゴルフ、ボーリング等身体を動かす運動が好きでスポーツ仲間も多い。町のコーラス、カラオケグループにも所属。カラオケで



群馬テレビの「歌謡大賞」に出場したほどの美声である。真面目で誠実な人柄で多くの友人に恵まれている。(玉田た)

◆行事予定◆(平成23年4月~平成23年7月)

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
4月	9日	子どものつどい	3日	組内会
	11日	パッチワーク会(10.00)	16日	第6期連研(4) 於弘教寺
	18日	婦人会例会		
	29日	永代経法要		
5月				
		婦人会総会 壮年会総会	30日	北ブロック役員合同協議会
6月			4・5日	第6期連研(5) 一泊研修
	11日	子どものつどい 婦人会例会	17日	群真会ゴルフ
			21日	組仏婦総会・研修会
7月			20日	ビハーラ(弘教寺担当)
		婦人会例会	28・29日	北ブロックキックサカ(本山)

※編集後記※

今年十月の親鸞聖人七百五十回大遠忌法要は、私自身最初で最後のご縁であり、参拝の申込みをしました。五十年前は入社直後で東京の独身暮らし。五十年後は百二十余才で不可能。昨年のお待ち受け法要にいただいた「宗祖讃仰作法」をCDで聞きながら、和讃で示されている「七高僧」方の、み教えを有り難くいただいております。老後の生活の柱にしたいものです。(橋本ま)

私達は楽しんでいません
パソコンで！

▼習得したいこと

倉林 賢治・昌子

弘教寺パソコン教室に参加、講習を二回受けましたが、触れた事の無いキー操作が難しくこの先、皆様についていけるか不安が募るばかりです。



▼ご法話を検索

吉田 武正

還暦を過ぎて知識もなく始めましたので思うように操作出来ませんでした。教室に参加し、親切なご指導によりワード、エクセル、インターネット、その他の操作も不十分ながら利用できるようになりました。

▼初めてのパソコン

佐々木 祐子

興味はありましたが、難しいそうで私には無理と諦めていました。西さんの親切、丁寧なご指導のお陰で今日で三回目で全然理解できていませんが、教室の有る日が来るのが楽しみです。

楽しみです。

皆さんのお力をお借りしながら、少しずつ上達出来たら嬉しいと思います。よろしくお願いします。

▼楽しく学んでいます！

伊部 芳夫

はじめて三年が経ちます。当初はマウスの操作も満足でなかった私ですが、お蔭様で年賀状や自治会・同窓会の報告書類等も作成できる様になりました。又、講座の後、お茶とお菓子をいただきながらご住職・坊守さんとお茶会もあり、今後とも休まず頑張りますのでよろしくお願いします。

▼パソコン(囲みの会)にハ合して

岩内 ひろ子

意味も解らぬ横文字と英語に悩まされ、頭の中は真白、慣れぬキーボードを打ちながら悪戦苦闘、無我夢中、覚えるまで到達するのが至難の業、自分の愚かさを思い知らされる毎日でした。でも、何故かたのしいです。

あれから三年、教わる事も少しは理解出来「ポツポツ」成果も見える様になりました。



▼ボケないよ

佐藤 吉一

パソコンは難しい物だと思込んで



いました。教室に参加して三年になりましたが、今だに難しいです。でもゴルフ会の案内書や組合せ表等は作る事が出来る様になりました。

教室に通いたいと思います。

▼パソコン教室に参加して

佐藤 静枝

ワード、エクセルも分ならず参加して早三年近くになりました。

西さん、橋本さんから基本の『キ』を合言葉に教えて頂き、仏婦の書類、年賀状、のしの宛名書き等々出来る様になり心うきうきです。これからもボケ防止にがんばります。

▼いままでを振り返って

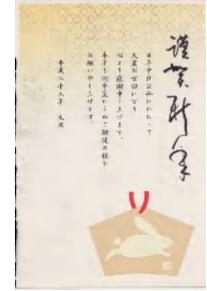
小林 長三郎

趣味と実用を兼ねてパソコンに挑戦しました。続くとは思いませんでした。意外に興味があり飛躍しようと思いましたが、壁にぶつかり限界を感じました。

その後、お寺さんで西さんがパソコン教室を開いて頂けるとの事、基本から幅広く教えて頂き、お蔭様で年賀状、写真、CD、シール印刷等出来る様になりました。

「お寺希望の方」
申込みは電話か来て
0170(7)0700(平日)
0170(7)0700(平日)

パソコン教室
受講生の作品集



▼パソコンの活用

泉勝利

平成二十年六月から始まり、その時期は壮年会の会計を担当、総会での資料作りに活用でき有りがたかったです。

地域、地区での文面、挨拶状作りなど、色々教えて頂き心より感謝致しております。これからはパソコンを利用した、もの作りに挑戦したいと思います。

▼パソコンに挑戦

泉昌子

この二年間を振り返ると、キーの打ち間違え、やっと作成出来た文面が飛んで戻らず苦労した事。仏婦会計報告書、写真、カレンダー、ミニデイ開催日程表、事業実績書、名簿等が出来ました。

今まで習ったことを復習しながら、老いを先送りし色々挑戦したいです。

春告草夫と習いし七十路かな

旅行記のDVD



扇を作りました



カラオケ特集のCD



絵手紙



▼パソコンを始めて

中野俊和



昨年秋から弘教寺のパソコン教室に参加させてもらい、「パソコンを習いたい」思いがようやく実現しました。イロハから教えてもらい、「写真」や「曲」を取り込んだCDも作れるようになりました。

これからも日常生活や趣味の中で活用できるように続けていきたいと思えます。

▼継続は力なり

小越 昭子

初心者むきです。〜というお誘いに、初回から、お世話になっていきます。今日も、「西さん」橋本さん「わからないコールを送り、自分には「継続は力なり」とエールを送りながら、楽しんでいきます。

▼パソコン教室に参加して

貝塚 俊市

定年退職後、日常生活ではパソコン操作には余り縁がなく必要性もさほど感じておりませんでした。このパソコン教室に参加して、余りにも多くパソコン活用方法があり、学べば学ぶほど奥の深さがあるのを実感させられました。新しい活用方法を教えて頂きパソコン操作の楽しみが倍加致しました。

クリップ

今年も『楽しく学ぶ』をモットーにご一緒に挑戦しましょう！世の中に乗り遅れないようにと先日ウィンドウズ7・64ビットのパソコンを自作しました。

(西)